

様式3

平成18年度 傾斜的研究費(特定)(全学分)(戦略分・公募分)研究報告書

研究テーマ区分 [①都市形成に関わる研究 ②特徴ある教育プログラム開発をめざす研究]

研究課題名	学生教育への地域障害者のコラボレーションと支援に関する研究	
研究者または研究代表者名	所属部局名	職位
金子 誠喜	健康福祉学部	教授
研究分担者名	部局名・所属研究機関名	職位
菊池恵美子	健康福祉学部 作業療法学科	教授
横井 郁子	健康福祉学部 看護学科	准教授
山田 拓実	健康福祉学部 理学療法学科	准教授
井上 薫	健康福祉学部 作業療法学科	准教授
妹尾 淳史	健康福祉学部 放射線学科	准教授
谷口 厚子	健康福祉学部 作業療法学科	研究員
研究実績の概要 (600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)		
<p>本年の研究目標は、1つには地域在住の障害者グループの協力を得て、本学部学内で会合等を行い、その折に学生が協力することで交流を図り、本学部には無い普段から医療を受ける人の希望、医療職への期待などを感じさせることであった。</p> <p>この点については、1学科での実績となったが、地域のグループ、ポリオの会より協力を得て、数人のグループ員の参加と学生が交流し、患者としての治療についての期待と現実についての受け止め方、患者としての生活での経験、悩み、そして、医療職への患者としての治療時等の対応についての希望を伝えてもらった。学生らはこの交流については良い体験として受け止めた様子で、参加可能なものはほぼ参加し、また、時間を過ぎても相互に意見を交換するところが見られた。</p> <p>他の目標は、全学科でそれぞれ異なった方法での実施となったが、患者グループ等の参加を得て、それぞれの学科科目の実技試験を実施した。このような実技試験での学生の学習成果の向上、試験方法の客観化・信頼性の向上を図ったが、おおむね学生の学習に向かう態度の向上を得ることができ、学生からは良い評価を受けることができた。しかしながら、試験方法の客観化、あるいは信頼性の向上については全教員の取り組みの難しさから十分な成果を挙げるができなかったと分析された。</p> <p>しかしながら、臨床施設を有しない本学部では、このような取り組みが研究費によって行われるのではなく、経常経費で実施できるよう要望する。</p>		

様式3

研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等]			
著者 (講演者)	論文題目 (発表題目)	発表誌 (発表大会名)	年月
研究参加者全員	学生教育への地域障害者のコラボレーションと支援に関する研究		印刷中
Kaoru Inoue, Atsuko Tanimura, Takashi Yamada, Emiko Kikuchi, Seiki Kaneko, Takumi Yamada, Yuko Yokoi, Atsushi Senoo	Introducing PBL with the Simulated Patient for a Course of Occupational Therapy - Part 1; from the Facilitator's Point of View -	6 th Asian-Pacific Conference on PBL	平成18年5月
Atsuko Tanimura, Kaoru Inoue, Emiko Kikuchi, Takashi Yamada, Seiki Kaneko, Takumi Yamada, Yuko Yokoi, Atsushi Senoo	Introducing PBL with the Simulated Patient for a Course of Occupational Therapy - Part 2; from the Student's Point of View	6 th Asian-Pacific Conference on PBL	平成18年5月